

- 1 食の安全にこだわります。
- 2 健康な食べ方を大切にします。
- 3 国内自給力アップをめざします。
- 4 遺伝子組み換え作物を認めません。
- 5 有害物質ゼロをめざします。
- 6 自然資源を大切に使います。
- 7 ごみの削減に取り組みます。
- 8 原発のない社会をめざします。
- 9 おたがいにたすけあう社会をめざします。
- 10 自分たちで決めて、自分たちで実行します。

FEC自給ネットワーク

生活クラブは、全国32の生活クラブ生協のネットワークで、F(Food) E(Energy) C(Care)の自給できる地域を作りだし、サステイナブルな社会の実現を目指します。

自らつくりだす、私たちの福祉

私たちは生活クラブの消費材を共同購入することで市場の問題を解決しようと取り組んでいます。生活クラブのネットワークの中で、暮らしに欠かせない食べもの(Food)とエネルギー(Energy)と福祉(Care)を自らつくり出していくFEC自給ネットワークづくりを進め、私たちが安心して暮らし続けられる社会「サステイナブル(持続可能)な社会」を実現したいと考えています。

求められる地域福祉

日本は世界でも類を見ない超高齢社会の時代に突入り、今後は医療や介護施設が絶対的に不足と言われていています。またあらゆる世代に格差や貧困がひろがり、福祉の充実が欠かせない状況です。

2015年度から政府は「地域包括ケア」をキーワードに、福祉の担い手を施設から地域へ転換しようとしています。市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じた「地域包括ケアシステム」をつくり上げていくことが必要、としています。

生活クラブが取り組む福祉

生活協同組合は、協同して取り組むことで組合員の願いを実現しようとする組織です。みんなでささえあい、互いに「たすけあう」精神のもとに結集して、掛金を出しあい加入者に火災・死亡・自動車事故・傷害・病気などが発生したときに定められている金額を支払う仕組みが「共済」です。

生活クラブは地域福祉にかかわるさまざまなニーズに応え、実現するために、各地でワーカーズ・コレクティブや社会福祉法人を立ち上げてきました。あらゆる人が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けられるように、という想いのもと、「福祉・たすけあい8原則」を掲げ、実践に向けて動き出しています。



地域包括ケアシステムの5つの要素

(厚生労働省・地域包括ケアシステム研究会報告書より)

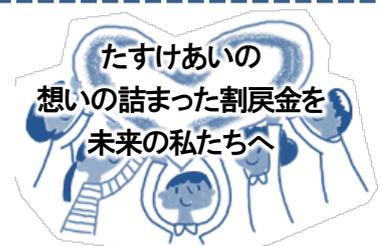
「介護」「医療」「予防」という専門的なサービスと、その前提としての「住まい」と「生活支援・福祉サービス」が相互に関係し、連携しながら在宅の生活を支えている。

在宅生活を選択することの意味を、本人・家族が理解し、そのための心構えを持つことが重要。

生活クラブ福祉事業基金に参加しよう

福祉にかかわる問題を解決するために、生活クラブ全体で福祉分野の事業を拡げます。そこで、生活クラブのそれぞれの生協が、福祉事業を展開していく際に必要となる資金を助成するための「生活クラブ福祉事業基金」を創設し、2018年度から助成を開始します。

基金の趣旨に賛同し、CO・OP共済《たすけあい》の割戻金の寄付で、この仕組みを広げていきましょう。



～生活クラブ都市生活のこれまでから「福祉」を考える～

私たちの周りにあった「たすけあい」＝「福祉」

原点は阪神淡路大震災における ボランティア活動の経験 1995 年～

阪神淡路大震災が起きた1995年当時、生協都市生活(現・生活クラブ都市生活)は、「食」や「環境」の安心・安全を柱に班で共同購入をしていました。震災直後に組合員のつながりの中から始まった被災者支援は、組合員かどうか、「食」に関わる問題かどうかは関係なく、できることをやる自然なたすけあいの広がりでした。共同購入活動の中で培ってきた「協同」が地域で発揮されたのでした。

この経験が、「食」や「環境」の問題を他人任せにせず、協同の力で取り組んできたのと同じように、「福祉」も自分たちの問題として取り組んでいきたいと考えた原点になりました。



仮設住宅での昼食会準備
(1995年12月 尼崎市)

被災者支援の経験から生まれた 高齢者福祉

阪神淡路大震災後、手探りで始まったボランティア活動は、地域の人々の再生を目指した支援活動として継続しましたが、6年後、福祉の市民事業を行い、担う“ひと”を養成し、高齢社会においても安心して暮らせる、まちのたすけあいのしくみとネットワークを編み上げていくことを目的とし、2001年に特定非営利活動法人都市生活コミュニティセンター(TCC)が設立されました。

TCCは、訪問介護ワーカーズ「あしすと」を設立し、介護保険事業を行っていますが、今年10月には、さらに新しい事業としてサービス付き高齢者住宅「パンセ武庫之荘」を開所します。生活クラブ都市生活も、TCCと連携しこの事業を応援していきます。

子育て支援で組合員どうしの つながりづくり 2004 年～

少子高齢化が進み、子育て世代から高齢者までが安心して暮らせる地域社会の実現が求められています。企画に託児を行って、子育て中の組合員の活動参加を応援することから始まった子育て支援は、子どもを持つ親がほっとする場「子育てひろば」の開催につながりました。多世代が交流することで、組合員どうしがつながりコミュニティを実現することを目指してきました。



東神戸支部子育てひろばきらきらの様子(2016年12月)

身近なたすけあいを応援、「エコロ タすけあい制度」開始 2016 年～

班で共同購入をしていた時代、班の中では自然とたすけあいが行われていましたが、個人配達が始まり組合員のつながりが希薄になっていきました。日常生活のちょっとした困りごとは組合員どうしのたすけあいで解決しようと、昨年、「エコロたすけあい制度」を開始しました。

福祉政策を策定し、生活クラブ都市 生活らしい「福祉」を考えていきます

暮らしの中の不安や困りごとは、人それぞれです。地域によってコミュニティのあり方なども違います。子育て世代や高齢者だけでなく、様々なハンディキャップを持つ人が安心して地域で暮らし続けることができるように、私たちは地域の福祉の課題解決に取り組む必要があります。これまで蓄積してきた経験や取り組みを生かし、いま求められている地域福祉の実現を目指す福祉政策を策定します。

「福祉」にどう取り組むかを 一緒に考えましょう

私たちの考える「福祉」は生活そのもの。生活する上での問題を、一つずつ解決していくことです。皆で参加し、私たちの生活を一緒に考え、取り組んでいきましょう。まずは14000人のほっとコミュニケーションに参加したり、今週配布している福祉に関する意識調査アンケートに答えて、「福祉」を考えてみましょう。皆の想いをもとに生活クラブ都市生活らしい「福祉」を実現する政策にしていきます。

自分自身が、そして誰もが日々「しあわせ」に、「その人らしく」暮らせるように、いっしょに地域福祉への一歩を踏み出しましょう。



おいしくビオサポ！ 生活クラブの書籍・道具も 健康な食を応援します！

『暮らしのカタログ』や『本の花束』、みなさんはどのくらいご覧になっていますか？今回は7月にお招きした生活クラブ連合会の荒巻幸穂さん、相馬祥さん、ステンレスや鉄製の調理道具でお馴染みの下村企販(株)の阿部正直さん、木製品の酒井産業(株)の酒井慶太郎さんのお話ををご紹介します！きっと来週からカタログを見るのが楽しみに…。



★暮らし方のヒントがいっぱい！

『本の花束』掲載図書は、組合員で構成する「本選びの会」による選書です。今私たちが何に関心を持って暮らし、未来に何を手渡そうとしているのか？同じ消費材を利用する組合員の目線で選ばれた書籍には、暮らし方のヒントがいっぱいです。この「本選びの会」の活動は、市民自身による豊かで自立的な読書文化を創造すると評価され、「第8回 日本女子大学家政学部賞(2015年度)」を受賞しました。

★優れた調理道具

食材の良さを活かして美味しく調理するには、調理道具の特徴を知ること大切です。今回、鉄、ステンレス、アルミ、銅の鍋の長所と短所、お手入れ方法を教えていただきました。「鉄鍋の焦げは余熱が足りないから。錆びたらたわしで洗ってしっかり水分を飛ばし、油をなじませたらいい。失敗しながら使い方を身に付けていけば大丈夫。」とのこと。優れた道具は使いこんでこそ良さが実感でき、愛着が湧くのだと思いました。



阿部正直さん



★偉大な木のか

木のまな板には防菌・抗カビ、殺菌作用があり、腕にも包丁にも優しく、使う前に水で濡らして湿らせると、ニオイやシミもつきにくくなり長持ちするそうです。

しかし木材をとりまく状況は深刻です。植林した木は20年に一度、3分の1ずつ間伐しなければ使える木として育ちません。現在、林業の高齢化で間伐がなされず、木はもやしのように育ち、日光が入らないため植物も育たず動物も棲めず、山が荒れて問題になっています。適切に木を切り、間伐材を有効に使うことで林業が活性化、山が元気になり、水環境や海を守ることもつながります。私たちにできるのは、間伐材でできた割りばしや爪楊枝、まな板など木製品を利用すること。酒井産業では木や竹製品の開発販売だけでなく、ワークショップやイベントを通して、子どもと自然の橋渡しをする木育にも力をいれています。



酒井慶太郎さん

私たちが暮らしていくには「道具」は必要なもの。しかし様々なものがあふれる現代。選ぶ前に疲れてしまい、本当の豊かさは何だろう？と考えさせられてしまいます。何を選んで使うのか？食べ物と同じく、私たち自身が判断する目を持たねばなりません。

生活クラブでは「本当に必要で有用なもの」「長く使い続けられるもの」が消費材として選ばれ、みんなで使っていくという考えのもと、カタログが作られています。消費材に込められた思いを、私たちが使い続けることでつないでいきたいですね。



夏バテ疲労回復に！ 豚肉の太巻き で、お米を食べよう！



【作り方】

- ① お米を炊いて、すし飯を作る。
- ② 卵焼きを作り、冷ましておく。
- ③ 豚肉に薄力粉をまぶし、なたね油で炒める。
- ④ 火が通ったら焼き肉のたれをしっかりと絡め、さらに炒めて水分をとばす。
- ⑤ 巻きすの上に海苔をしき、その上にすし飯を広げ、薄く梅肉をのぼす。
- ⑥ 野菜、卵焼き、③の豚肉をのせて巻く。

【材料】 5本分

- ・米(3合)
- ・すし酢(ご飯1合に対して、約30ml)

具材

- ・豚肉(300g どの部位でも OK。モモがオススメ) ・薄力粉(適宜)
- ・焼き肉のたれ(適宜、ニンニク入り) ・卵(3個) ・なたね油(適宜)
- ・梅肉(梅干し5個分) ・大葉、きゅうり、レタスなど好みの野菜

*大人はキムチ、子どもはマヨネーズも人気です。

みんなで進める仲間づくり

生活クラブ都市生活では、「食」「環境」「暮らし」の中の問題を、他人まかせにせず、共同の力で解決し、安心・安全の実現をめざしています。わたしたちの望む社会を実現するためには、仲間を増やしていく必要があります。

今年度(4月～翌3月)の計画は、加入**1,650**人、脱退**1,200**人、純増**450**人。
7月現在、加入**588**人、脱退**386**人、純増**202**人になっています。



調理室の一角に設けられた加入コーナーで、手続きをする参加者（さらら仁川）

支部と生産者と職員と一緒に仲間づくり

生産者コラボ企画 美勢商事(株)

「生産者コラボ企画」は、支部と生産者と職員が協力し、仲間づくりをすすめる企画です。参加者にはゲスト同伴を呼びかけ、当日に加入ができるコーナーを設けました。市販との違いや食品添加物の話を聞き、餃子の焼き方講習のあと、美勢商事の冷凍消費材を使った飲茶ランチを食べながら生活クラブ都市生活を知らせることで、加入につながりました。次の開催予定は2月。あなたも、友だちを誘って参加しましょう。

7/6 姫路市勤労市民会館 調理室(主催：姫路支部)参加者30人(ゲスト17、組合員13) 当日加入6人

7/7 さらら仁川ッキングルーム(主催：宝塚・西宮・尼崎支部)参加者22人(ゲスト10、組合員12) 当日加入4人



うちdeカフェ QRコード

↑プロに教わる餃子の焼き方
(姫路市勤労市民会館)
飲茶ランチを食べながら
(さらら仁川) →



ひとりでもできる仲間づくり

ポスティング

近所にチラシをまいて、生活クラブ都市生活を知らせます。総代会や田んぼの企画参加者に呼びかけたり、支部でも企画にあわせてポスティングしました。また、ポスティング隊※は、春の仲間づくりキャンペーンにあわせて一斉にポスティングをしました。

4月から7月末までに16,215枚(内ポスティング隊7,200枚)をまき、10件の問合せがあり、その内4件の加入につながりました。

※ 戸建て100枚以上、マンション200枚以上ポスティングをして活動費300円支給。今週配布のお知らせで募集しています

うちdeカフェ

組合員以外のお友だちを1人以上誘って、消費材を試食しながら生活クラブを知らせる「うちdeカフェ」は、気軽に開催できると好評です。期間を決めて年2回開催しています。春の開催では申込みが22件あり、今、報告が届いているところです。(左のQRコードからアクセスしてご覧ください。) 来月には秋の募集があるので、お友だちを誘って気軽に開催してくださいね。

組合員からの紹介

仲間づくりに一番欠かせないのは『組合員からの紹介』です。「サンプルを食べてみて！ 試食会をやるから来て！ 面白い企画があるから一緒に行こう！」と友だちに気軽に声を掛けましょう。あなたの言葉でお友だちに生活クラブ都市生活を知らせてください。

.....
秋の紹介キャンペーン中、お互いうれしい紹介チャンス！

エコロ mini レター

エコロたすけあい制度は、生活クラブ独自の「たすけあい(共済)」の制度です。制度内容は各地の生活クラブがそれぞれに作るもので、どれもオリジナルです。

エコロたすけあい制度が他の共済と違うのは、困った時に給付金が出るのではなく、実際に誰かにたすけてもらうところです。知り合いの組合員にたすけてもらえるのが一番ですが、お願いできる人がいない場合は、ケア依頼を受けたコーディネーターがケア者を探します。たすけあいが行われた後に出された給付申請の中には、コーディネートした二人のつながりが継続していることが分かるものがあります。

6月

エコロたすけあい制度利用状況

加入者：802人

給付申請件数	55件(コーディネート件数1)
給付金額	90,400円
エコロサークル活動費	10,000円
事務費※	7,720円

※審査会会場費、交通費他

たすけの必要な人と、たすける側の人がいって成り立つたすけあいですが、制度が成り立つためには、大勢の100円(毎月の掛け金)が必要です。是非、加入して制度を応援しましょう。



住吉川小水力発電所を実現しよう！

いよいよ、具体化に向けて動き出します

基本調査から、具体的な事業計画の段階に

住吉川小水力発電所を実現する会として、昨年から兵庫県の補助金を得て、基本調査に取り組んできました。その結果、建設にはいろいろな許認可が必要となりますが、十分、実現可能であり、また事業的にもFIT制度を活用することによって、採算のとれる発電所計画ができると判断しました。そして、具体化に向け、次のステップにすすむことを決定しました。この発電所は、生活クラブとして初めての小水力発電による自前の電源であり、関西圏の安定的な電源としての意味も重要です。

事業主体となる発電事業会社

「(株)住吉川自然エネルギー発電」を設立

小水力発電は、適正にメンテナンスすれば何十年間と長期にわたって安定した発電ができる事業ですが、初期投資にまとまった資金が必要となります。また、関西圏の自前電源として、地域に根ざした循環(エネルギーの自給ネットワーク)をつくる観点から、この事業のためだけの目的会社を設立することとしました。関西6生協を中心に生活クラブ連合会、NPO法人北海道グリーンファンドの出資を得て、「(株)住吉川自然エネルギー発電」を設立し、

6月の草刈で。兵庫県勤労者山岳連盟の皆さんと。



この事業に取り組みます。本社所在地は生活クラブ都市生活の本部センター内に置きますので、

私たちはまさに地元に創った電気を使う、地域住民でもあります。

順調に進めば、来年秋には発電スタート！

基本調査を委託した(株)地域小水力発電と一緒に引き続き、許認可に関係する行政との折衝、水車や発電所の詳細設計、建設工事業者や手法といった具体的な課題に対して、同時進行で対応しているところです。

まずは行政との折衝がどう進展できるかにもよりますが、すべて順調にいけば来春着工、来年秋には発電所が完成して発電スタートというスケジュールですすめていきます。

== * == * ==

まだ、大々的なお知らせができませんが、事業が決定して、広報できる段階になったら、一般市民にむけて広く「住吉川小水力発電所」の計画を知らせていく予定です。

生活クラブでんき

■ 教えてください！お宅のでんき事情

料金、使い勝手は関西電力と何も変わらないけど自然エネルギー中心、電源の明らかな「生活クラブでんき」。それなのに、生活クラブでんきを選んでいる組合員は、まだまだ多くはありません。そこで、5月に組合員の電気事情についてアンケートを実施しました。回収数が34と少なく、そのうち生活クラブでんきに変えた人は10人、変えていない人が19人でした。

電気について検討はしても、生活クラブでんきに変えていない人の中には、「手続きが面倒そう」「価格が高そう」「太陽光発電をしているから変えられない」「自然エネルギーのみでは発電が安定しない」などの誤解が見られました。

■ だから、生活クラブでんきに変えよう！

一方で、8月からの電気料金値下げを、契約されたみなさんにお知らせした時に、生活クラブでんきのオススメポイントを伺ったところ、たくさんの方が意見を寄せてくださいました。

- ◆ 原発の危険性、廃炉の費用・方法などを考えると当然のこと。もっとたくさんの人で支えてゆきたいものです。
- ◆ 生活クラブでんきは、手続きも簡単でした。こまめに電灯を消すようになりました。
- ◆ 1時間ごとの電気使用量もwebで知ることができるので、節電対策を練りやすい。食洗機の乾燥機能を夏はstopしてみたら、ずいぶん節電できた。
- ◆ 原発由来でない胸を張って周囲にアピールできる！しかも電気代は同じ。料金制度が、明らか。
- ◆ とにかく原発に頼らないで、電力を今まで同様に使えるので、生活クラブでんきに切り替えたいほうが不思議です。価格、使い勝手など、何も今までと変わらず、原発を使わなくて済むので気分だけが少し良いです。

ぎっしりと書きこまれた意見が50通を越えています。順次お伝えしていきますので、まだ迷っているあなたも、生活クラブでんきに変えてください。



「生活クラブでんき」に変えよう！資料請求はQRコードから

西宮
支部

野菜をたくさん食べよう！



西宮支部の今年度のテーマ消費材は、青果。西宮支部では、組合員みなさんに青果に携わる生産者のことをもっと知ってもらい、野菜をたくさん食べてもらおうと様々な企画を開催しています。

近江農産、愛菜会と交流

4月には、近江農産組合の高木さんをお招きしてぬか漬け講習会を行いました。初めて挑戦する方が多かったです、みんなでワイワイ楽しくぬか床を作りました。

5月には、契約野菜『畑の便り』を使った調理実習と『畑の便り』の生産者の愛菜会から渋谷晃郎さん、渋谷要さん、渋谷嘉一さんをお招きして交流会を開きました。農業や化学合成肥料をできるだけ使わない野菜づくりをする上での苦労や工夫している点などを直接伺うことができ、とても貴重な機会となりました。生活クラブ歴の長い組合員による調理実習だけでなく、ピオサポーターから野菜を食べるためのレシピの紹介や野菜の保存方法の話もあり、盛りだくさんな企画となりました。



4月、近江農産を招いてぬか漬け講習会。

愛菜会で大根づくり

今後の支部企画として、9月から大根づくりに挑戦します。第1弾は9月9日(土)に大根の種まき、第2弾は10月7日(土)に畑の草引きや間引き、第3弾は12月9日(土)に大根の収穫を、それぞれ予定しています。土曜日なのでお子さんと一緒に参加できますよ。みなさんのご参加をお待ちしています！

(西宮支部クリエイター 佐藤 いずみ)



5月の愛菜会交流会で、野菜づくりのお話を聞きました。

今月の組合員

山口 千恵子さん 西神戸支部 2015年4月加入

生活クラブに加入したのは、3歳になった娘が生まれた頃です。上の子の離乳食の時に利用していたのですが、転居を機にやめてしまいました。他の宅配を何社か利用したのですが、やっぱり生活クラブの方が良かったなあと思う事が多く、再加入しました。同じような健康志向の宅配でも生活クラブほどのこだわりがなかったり、美味しくなかったりでした。そして一番の違いは生活クラブでは組合員活動が活発で、生産者との関係が信頼出来るものなので、カタログに載っているものは何も考えず欲しいものを買えばいい、という安心感があるということです。もう生活クラブの消費材のない生活には戻れないですね。

昨年1年間はモニターとして支部の活動に参加し、4月からクリエイターとして活動させてもらっています。同じ価値観を持った仲間と楽しく活動する中で、生活クラブの思いを知れば知るほど、その良さを伝えたいと感じる毎日です。



= 契約野菜
「畑の便り」 =

毎日の食卓に欠かせないお野菜。特にオススメなのは、契約野菜「畑の便り」です。旬のものが来るので季節ごとに色々なお野菜が楽しめます。形が悪いものもありますが、市販に比べ味が濃くて美味しく、とれたてなので鮮度が違います。毎週末にレシピに困っても、ピオサポ便りのレシピが付いていて、とっても助かります。

自然に食卓が野菜中心の献立になって、野菜料理のレパートリーが増えること間違いなし！生産者は愛菜会(淡路島)、愛菜会(神戸市西区)、藤井野菜(神戸市北区)。カタログには載っていません。登録して食べ続けましょう。

野菜とともにオススメなのは、「牡蠣味調味料」と「万能つゆ」。とにかく野菜を炒めて牡蠣味調味料か、万能つゆで味付けすれば、美味しい一品が簡単にできちゃいます！特に牡蠣味調味料は、牡蠣を丸ごとすり潰しているのだから牡蠣のうま味と栄養がたっぷり、超が付くほどオススメです！(西宮支部 前田弥里)

つれづれとしせいかつ 徒然都市生活

地域で活躍する生活クラブ都市生活の仲間

エッコロ講座 笑いヨガでストレス解消！

北神戸支部 小畑 梅子

私の「笑いヨガ」との出会いは8年前にさかのぼります。

笑いヨガは「どなたでもできる笑いの健康体操」として、今は定着しつつあります。

出会った当時はまだ知る人も少なく、初めての体験で気恥ずかしさが先に立ち、なかなか自分を解放することができませんでした。でも気がつけば、肩こりがとれ、身体が軽くなり、気分がすっきりした感覚だったと今も覚えています。

その後、老後の健康維持に良いと思い、資格をとって活動しています。この度、エッコロ講座に登録しました。子どものような遊び心で楽しく「ハハハハ〜！！」と声を出しながら体操していくうちに身体がゆるみ、ほぐれてきます。明るい笑顔となり、ストレス解消！！コミュニケーションもとれて「楽しかった！」と喜んでくださる参加者のお声が聞けると私も嬉しくなり、元気をいただいています。



えこびよん



エッコロ講座について

エッコロ講座は、組合員が登録して講師を務めます。5名以上の加入者で結成し登録する「エッコロサークル」が開講する際には、エッコロたすけあい制度の中から講師料補助と講師交通費を給付してサークル活動を応援します。

理事会報告

2017年度第3回理事会報告2017.7.24.10:00~16:30 於:神戸市勤労会館407号室 (報告承認事項3項目、協議決定事項5項目 省略)

1. ネグロス交流ツアー中止について
中止を受けてカンパ返金対応の確認。今回の単協判断について事後検証として意見交換した。
2. 第1四半期の事業状況のまとめと対策検討の方向性について
供給高・組合員拡大・利用高、経費執行状況について第1四半期のまとめを行った。組合員拡大とあわせて、特に利用高の低い加入1・2年目の組合員層にむけ、一人当利用高の引上げ対策をすすめる。
3. 竜おうみ米の利用強化対策と2018年産計画数について
43週での契約量消費をめざした対策状況を報告し、今後の活動計画を確実に数量増に結ぶよう確認した。2018年産の作付依頼数を830俵とすることを確認した。
4. 第2次中計策定チーム及び福祉政策策定チームから検討状況の報告を受けた。
5. 「あいたくて都市生活」の検討状況について担当理事からの報告を共有した。(諸会議報告)

連合理事会、各委員会の報告および各担当理事の報告を共有した。

(事業報告)

6月決算報告を確認した。6月供給高は予算比91%と大きく下回った。経費は予算比101.9%となり、事業剰余、経常剰余が計画を下回った。7月加入は28週時点で87名と計画を下回り、一人当利用高も計画を下回った。

都市生活 Q&A

Q 今年も「せっけん運動カンパ」と「ネグロスツアーカンパ」の呼びかけがありましたが、どれくらいのカンパがあったか教えて下さい。

A せっけん運動ネットワーク主催で開催されるシャボン玉フォーラムに組合員を派遣し、情報の共有と他団体との意見交換を行い、せっけん使用を広める活動に生かしています。今年は長野で開催され、理事1名とせっけんクラブのメンバー1名が参加しました。このフォーラム参加と一年間のせっけんの活動を目的として呼びかけた「せっけん運動カンパ」に27,000円が集まりました。

「ネグロスツアーカンパ」は、ATJの民衆交易バナナの産地ネグロス島を訪問し、取り組みを知り、生産者と交流をするツアーに、組合員から募集した1名を派遣する費用の一部に充てるためのカンパです。今年は51,000円が集まりました。しかし残念なことに、直前になってツアーは中止となりました。フィリピン・ミンダナオ島での戒厳令発令等、現地情勢の変化があり、外務省の海外渡航者安全情報などを勘案した結果です。カンパされた方にはその旨を文書でお知らせし、返金しました。

他に、生活クラブ連合会で取り組む震災7次カンパ(3/20~5/12)は1,421,500円、遺伝子組み換え反対運動カンパは85,700円でした。



愛農会のたまねぎを食べよう！

淡路島のたまねぎの美味しさって？

温暖な気候に恵まれた淡路島のたまねぎは、柔らかく、甘くて、辛味が少ないと全国的にも有名です。また、時間をかけて育て、収穫後もたまねぎ小屋に吊り下げて自然乾燥させることで、甘味がよりいっそう増すとも言われています。(JA全農兵庫サイトより)。

その中でも、南あわじの愛農会のたまねぎは格別です。

愛農会とのつながりは約40年

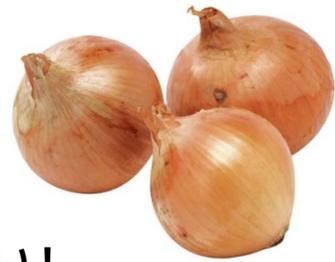
愛農会と生活クラブ都市生活との関係は、生協になる前の共同購入会の時代から約40年に及び、その頃のたまねぎ援農をはじめ、カタログ野菜にとどまらず、契約野菜「畑の便り」の取り組みも含め、作り手と食べ手の顔が見える関係を続けてきました。

たまねぎ引き体験やみかん狩り、生協祭「あいたくて都市生活」などで愛農会のみなさんの人柄に直に接し、田舎の親戚に会った時のようなあたたかい気持ちになった組合員はおおぜいいます。



8/18、作付け会議で愛農会のみなさんと。
左から仲山さん、武田さん、武岡さん、柏尾さん(息子さん)、高田さん、上田さん(森本さんのお嬢さん)、森本さん

今週配布の、愛農会オススメたまねぎ料理レシピもみてね。



愛農会のたまねぎは美味しいだけじゃない！

たまねぎの一般的な栽培では、収穫までに十数回の農薬を散布しますが、愛農会のたまねぎは、畑に定植して以降、収穫まで一切、農薬不使用です。

もともと愛農会のたまねぎの苗は自家栽培で、苗の植え付けも手植えでしたが、生産者の高齢化も進み、農作業の負担を軽減するために、4年前から育苗と定植の機械化が進みました。育苗時に、営農指導により土壌消毒が行われていたことから、カタログの栽培マークが変更されましたが、次年度産以降は育苗時の農薬(土壌消毒材)は使用せずに栽培するとのことです。

愛農会のたまねぎを次世代へ

今シーズンのたまねぎは、干ばつ影響で例年より小玉です。栽培マークの変更の影響もあり、注文量が大きく減っています。生産者の努力に応えるには、これまで以上に消費していく責任があります。

化学合成農薬や化学肥料を使用せずに作る、愛農会のたまねぎを次世代につないでいけるよう、顔の見える関係を大切にしながら、しっかりと食べていきましょう。

職員こぼれ話

名谷センター職員
中谷 健太

生活クラブ都市生活の職員が、日ごろの業務、身のまわりのできごとを通して見たもの、聞いたことをお伝えします。

うちの子が1番！

うちの息子が1歳5ヶ月なのですが、子どもの成長って楽しいですね。目まぐるしく変わる日常の中で、自分も父親として成長させてもらっています。

配達先でも子どもの話になることがありますが、「うちの子はやんちゃだった」とか「おとなしかった」とか色々話を聞かせてもらいます。うちの息子はやんちゃになりそうで、男の子ならではの大きなエピソードでいつも心配させられます。(僕もやんちゃな方だったみたいですが…) 自分の子のエピソードなどになるといつも以上の笑顔で楽しそうに会話をしてくれて、「子どもっていつまで経っても可愛いやな」と感じさせられます。「うちの子が1番」という気持ちをもつてく感じることがありました、僕も親馬鹿だったみたいです。

2017年7月号より
「生活クラブのたまご」



生活クラブに加入してから、スーパー等で販売されている卵のほとんどが、輸入されたヒナ鶏を親とする鶏から採卵されていることを知りました。国産の卵だけど、元をたどると国産ではないのですね。安いのには理由があることも、生活クラブを始めて、生産者の想い、エサへのこだわりを知り、分かってきました。よくよく考えれば分かる事ですが、考える機会を生活クラブは与えてくれます。感謝です。(姫路 S.D)

編集雑感

毎月、機関紙モニター意見を集約して理事会メンバーに配信し、活動の振り返りに役立てています。まとめていると、モニターの皆さんが、機関紙を毎月読んでいくうちに知識が増え、自分の想いを書き、「やっぱり生活クラブよね！」となるのが伝わってきます。知って納得したら、次は人に伝えたい…モニター数が多いとまとめるのは大変ですが、皆さんが伝える人になっているのが、とっても嬉しいです。(1)